

NPO 京都コミュニティ放送
第 104 回 番組審議会 議事録

開催日時：2016 年 8 月 23 日（火）10：00～11：30

会 場：京都市中京区三条烏丸 烏丸ビル 2F Flag 三条

委員総数：7 人 出席：5 人 欠席：2 人

出席委員：山本時子 中村正 岡本卓也 松浦さと子 ジェフ・バーグランド

欠席委員：竹下清 福井秀彦

局側委員：町田寿二 松岡千鶴 （順不同敬称略）

ゲスト： 山村有佳里さん「山村有佳里のミュージック＋プラス」番組オーナー
（毎月第 1 火曜日 14 時 放送の 15 分番組）

■審議番組

「山村有佳里のミュージック＋プラス」

（毎月第 1 火曜日 14 時 放送の 15 分番組）

ピッコロ・フルート奏者の山村有佳里さんが、主にフルート・ピッコロの音楽を中心に
気になる音楽をお届けする番組。また、音楽家に限らず多様なゲストをお招きして楽し
いトークを繰り広げます。

2016 年 3 月 1 日放送の番組を聞いて審議に入った。

■番組審議

冒頭

番組オーナー山村有佳里さんから番組趣旨の説明があった。

ラジオカフェの幾つかの番組にゲスト出演したことがきっかけで番組を始めた。演奏に
来ることが出来ない人の為に、生放送はお昼にし夜に再放送している。演奏家なので、
放送も生が基本と考えている。ゲストの演奏家とは楽屋トーク的話をしたい。

審議委員の意見

- ・ 声のトーンと演奏のトーンがマッチしている。ゲストも話が上手でゆったりした空気が流れている。月 1 回の放送ではもったいない。
- ・ 演奏家は曲の背景、現地の情報を演奏会で話す。演奏家がゲストの時は楽。（山村）
- ・ 思わず聞き入ってしまい、自然に拍手をした。
- ・ 文化の交差点という番組のコンセプトだが、生演奏の息遣いが、聞いておられる町の人に届いている気がする。
- ・ 他の音楽番組に出演している時に偶然ラジオを聞いていたが、ゲスト出演している時と雰囲気が違う。生演奏で曲を 2 曲続けていたが、2 曲目の「ひまわり」の説明が演奏前に一言欲しかった。
- ・ 生演奏なので 2 曲目の説明のタイミングが難しい。（山村）
- ・ 演奏前後の間が気になる。演奏が終わったのか分からなかった。
- ・ マイクがオフの状態の時も今の状態を説明した方が良いのではないか。
- ・ リスナーにとっては、無音よりは今の状態を説明する方が親切だと思う。

- ・間（ま）については意見は色々。自分としては説明しすぎは避けたい。（山村）
- ・演奏を始めるまでの間は気にならないが、演奏が終わったら、例えば「恐縮ですが今楽器を片づけています」などと状況を説明すればよいと思う。
- ・自分の番組は海外からの反応も多い。放送の前に SNS で、当日の内容だけでなく番組の聴き方も丁寧に知らせている。以前、番組制作者の「反応がない」という声を聞いたが、大変驚いた。「誰の為に放送していると考えているのか」聞いてみたい。聞いてくれている皆さんにもスポンサーに対しても、責任を持って放送したいと考えている。それはコミュニティ放送であっても大切なことだと思う。（山村）

以上で審議は終了した。

この審議会の議事録は 2016 年 8 月 25 日から事務所で閲覧できるようにした。

この審議会の議事録は 2016 年 8 月 25 日からホームページで公開した。